

キリスト教会が地域づくりにもたらす役割

愛知大学 地域政策学部 地域政策学科

まちづくりコース4年 戸田ゼミナール 高津世光

1. はじめに

1-1 研究の背景と目的

日本の教会は、地域との関わりが希薄であると考えられてきている。しかし、今日では教会が福祉活動や、子ども食堂を展開するなど、教会と地域に多様な接点があることが考えられる。本研究では、三遠南信地域に立地するキリスト教会を対象として、教会の地域づくりへの関与意識について明らかにする。

1-2 研究方法

①三遠南信地域におけるキリスト教会の特性分析。②三遠南信地域におけるキリスト教会へのアンケート調査（キリスト教年鑑 2020 に掲載される三遠南信地域のキリスト教会：配布 149、回収数 53）③既存宗教地域で活動する大須教会の事例分析。

2. 日本におけるキリスト教会の展開

キリスト教信者数は人口の 0.8%と少なく、キリスト教の宗派であるプロテスタントとカトリックの比率は拮抗している。

3. 三遠南信地域のキリスト教会の特性

キリスト教文化が、三遠南信地域にはあり、昔も現代も関わりを持つ地域と言える。

① 三遠南信地域教会の日本での位置づけ

三遠南信地域教会の、47 都道府県別ランキングでは教会数、信徒数ともに、平均的な位置にある。プロテスタントとカトリックの教会数は 9 : 1 とプロテスタントが多い。

② 三遠南信地域における教会立地の特性

三遠南信地域内の教会数、信徒数等の市町村別比較では、都市と中山間で顕著に格差が見られるが、人口が少ない地域に大規模教会が立地することで信徒数割合が高い例もある。

4. 三遠南信地域における教会の地域活動調査結果

①教会の実態

教会設立は、1940 年～60 年のキリスト教ブームに多く 100 年以上の教会もある。教会の設立理由として、「町に信徒がいた」という理由で設立した教会が最も多く、信徒が先行し教会設立に至っている。教職者は高齢化しており、信徒も子どもが少なく、高齢者が多

い。また、自家用車で教会に通う割合が圧倒的に多く、高齢化に伴って教会に通うことの困難が予測される。

②地域活動の実態

住民交流で (61.5%)、施設提供 (57.7%)、地域事業参加 (53.8%) と過半数には達している。内容としては、住民交流では、コンサート、子ども・高齢者向け活動、施設提供では教会の貸出し、結婚・葬儀、コンサート、地域事業参加では町内会、地域委員、清掃などの割合が高い。様々な活動を行っており、地域活動に前向きな姿勢がみられる。主要な地域活動の意見では、「これを機に教会に来られる方がいた」、「子どもの居場所づくりが出来た」など地域との結びつきを大切にしながら、活動していることが感じられる。

③地域活動に対する考え方

肯定的な意見（「大変そう思う」と「そう思う」の合計）は、「地域への教会の働きかけ」75.5%、「地域活動への参加」59.2%、「他教会との協力」49%、「教会外の組織との協力」42.9%となり、個別教会の主体性が重視されている。他教会、教会外との協力では、プロテスタントは肯定的な意見が目立った一方、カトリック等は否定的な意見がみられた。

④コロナ禍の変容

礼拝・ミサの形態として、オンラインを活用し始めた教会が 5 割を越え、教会も変化しつつある。

5. 大須教会の地域活動事例分析

大須教会が地域と連携して行った主に 5 つの地域活動についてヒアリング調査を行った。特徴的な活動の「メリー大須クリスマス」では、クリスマスに教会の前で、賛美やミニ礼拝を地域住民に向けて行う。また、「商店街での結婚式」では教会と商店街が連携し、地域住民の応援もあって実現できた。こうした「地域とともに生きる」教会運営をしてきたことで、繋がりが生まれ、教会と地域が相互に良い影響をもたらしている。

6. まとめ

教会と地域が互いに影響し合う関係性も一部では形成されている。一方で、教会の縮小傾向、宗教性の壁があるなどの課題から、地域と教会が相互に理解し合える関係性から遠のいている。

こうした現状を踏まえ、今後は大須教会のように地域事業に教会が参加し、地域に閉ざすことのない教会を目指し、地域とともに歩む姿勢を示すことが重要だと考えられる。